

# ちばの地域福祉

## 「地域共生社会への道のりと中核地域生活支援センターのこと」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 会長 渋沢茂

新年あけましておめでとうございます。

2020年6月、令和3年度施行の社会福祉法等の改正法案が閣議決定され、「重層的支援体制整備事業（以下、「重層事業）」が創設されました。これは、①断らない相談支援②参加支援③地域づくりに向けた支援の、3つの支援を内容とするもので、従来から目指していた「地域共生社会」を実現するための具体的な仕組みです。（詳細は厚生労働省HP等をご参照ください。You tubeの説明動画もあります。）来年度から、県内でも複数の自治体で実施される予定です。

私たち中核地域生活支援センター（以下、中核センター）連絡協議会では、11月24日に厚生労働省の担当者の方にお越しいただき勉強会を行いました。国は本気で地域共生社会を目指していこうとしているんだなという気概を感じました。そして、苦勞して策定した制度にこだわらず、「私たちは実現するための一つの仕組みとして『重層事業』を考えた。別に有効な方法があれば、これに縛られる必要はない」と話していたのが印象的でした。

中核センターは、開設以来「誰もがありのままに暮らし続けることができる」地域社会の実現を目指してきました。要綱で定められた事業は、相談支援と権利擁護、地域づくりの3本柱から成り立っています。（後の改正で市町村支援を追加しました。）

その中で、相談支援は基幹を為すのだと思っています。対象を限定していないので、入り口で断ることはしません。何かを決める権限を持っていないので、相談者の方と私たちの関係性が勝負です。純粹なケースワークが行える環境とも言えます。アウトリーチを重視して、お話を伺うだけでなく、具体的な生活支援を行います。そして、一人一人の困難を地域の課題につなげることを意識しています。

17年前に中核センターが始まった頃、僕たちは迷っていました。相談者の求めにどこまで応えればいいのか？いつまで付き合えばいいのか？24時間365日相談を受けること、本当に出来るのか？…。誰もやったことがない中核センターでしたが、県内に沢山の仲間がいたのは何よりの力でした。悩みながら行っていることを話し合い、迷っていることに意見し合う、事例検討を徹底的にやりました。それは中核センターが変わらぬ活動を続けることが出来た一つの大きな原動力だと思っています。

これから始まる重層事業は、中核センターが行ってきたことが全国に拡がる嚆矢になると期待しています。中核センターの実践をしながら、地域共生社会を実現するための道のりを、多くの皆さんと考え合っていきたいと思っています。

本年もよろしく願います。

# 『さーくる』の地域づくり(船橋市)

## ○今年度のさーくるの現状

コロナウィルス蔓延防止のための自粛が社会全体に広がり、雇用が不安定になったことから、経済的に困窮する世帯が増え、さーくるへの相談者も通常の4倍と大きく増加しました。

これまで安定して働いていた方など、すぐに就労できる相談者が急増したことから、就労支援の充実を図るため、いくつかの取り組みを行っています。

## ○就労支援のための活動・地域づくり

外国籍の相談者が急増する中、就労ビザで就労をしている方が多く、就労制限がある中で就労支援に悩まされていました。就労ビザについて勉強を進める中で、外国籍の方への支援をされている「行政書士」の方と出会い、必要に応じて出張相談をしていただくつながりを作ることができました。

また、中小企業同友会に参加する中で、企業にはコロナ渦でも営業し続ける事業所もあり、人手を求めているところもあることを知りました。その後も同友会などの場に積極的に顔を出し、協力企業となってくれる方とのネットワークを少しずつ広げていき、中小企業同友会とオンラインイベントを地域連絡調整会議として共催することができました。

船橋市は、人口約64万人の中核市です。

さーくるは、2012年に船橋市が独自に設置した総合相談窓口で、2015年からは生活困窮者自立支援事業も実施しています。(以下、受託事業)

- ・総合相談窓口事業
- ・自立相談支援事業
- ・住居確保給付金事業
- ・家計改善支援事業
- ・就労準備支援事業
- ・無料職業紹介事業



<p>千葉県中小企業家同友会 障がい者雇用と多様な働き方を考える委員会 学習会</p>	<p>共催：船橋市「保健と福祉の総合相談窓口」さーくる 地域連絡調整会議</p>	<p>と き と ころ</p> <p><b>6月23日 火 16:00-18:00</b></p> <p>WEB開催 (Zoom)</p> <p>※参加方法 (Zoomの使い方は、千葉同友会ホームページ内の「最新記事 5月12日付け」をご覧ください。簡単な手順でご参加いただけます。</p>
<p>【WEB開催】</p> <h1>アフターコロナを見据えた人材戦略</h1> <p>採用担当者一般の方の参加も歓迎!</p> <p>～守りながらも攻める！</p>	<p>報告者</p> <p>◀ (株) ホエル 代表取締役 鯨井 祐介氏</p> <p>事業：セブンイレブン経営 (船橋市内4店舗経営)</p> <p>不人気業種のため人材確保に悩んでいた同氏。船橋市の生活困窮者窓口の方から紹介され、10年開きこもりだった方とコロナ禍で失業された方を採用することになりました。コロナ禍で売上は下がっているものの、コロナ終息後を見据えて、様々な労働条件を持つ方を受け入れる柔軟な社内体制を整えています。</p>	<p>船橋市「保健と福祉の総合相談窓口」さーくる▶ 就労支援員 岩永 牧人氏</p> <p>さーくるは、船橋市民を対象に分野を問わず相談に応じています。新型コロナウイルスの影響もあり、4月には400件近い新規相談があり多くの方が現在も働けていない状態です。そういった中でも採用を検討している企業とのマッチングを積極的に行っています。</p>

## ○協力企業主との具体的な連携事例

具体的な連携として、早期就労を希望する相談者を早期に採用していただいたり、就労準備支援事業を利用している方への就労体験の機会を提供していただいたりしています。以下、事例のご紹介です (事例は内容を修正しています)。

<p>【31才 女性】</p> <p>感情のコントロールができず、人間関係から転職を繰り返す中、就労準備支援事業を利用。仕事をしたい気持ちが強く、協力企業であるコンビニエンスストアで就労体験を行った。まずは週に1日1時間、コーヒーマシンの清掃を行い、現在は週3日5時間勤務に。マシン清掃以外に、検品・品出しもやっている。お客様に「いらっしゃいませ！」と笑顔で対応できるようになった。憧れのレジができるようになりたいと頑張っている。</p>	<p>【27才 男性】</p> <p>高校卒業後、家業で働くも現在は家事手伝いに。感情表現や意見を言うことが苦手で就労準備支援事業を利用。協力企業であるコンビニエンスストアで、飲み物補充と検品作業をバックヤードで行う。週1日1時間の就労体験から始まり、現在は週1日4時間勤務に。時間より早めに入り、退勤時には「お疲れ様でした、お先に失礼します。」と笑顔で挨拶ができるようになった。「コンビニでの仕事は大変だけど楽しい、やりがいも感じているので日数を増やしてもらいたい」との希望も出ている。</p>	
---	--	--

相談内容がますます幅広くなっており、今までのネットワークでは対応が難しいことも増えてきています。生活を支えるため、行政書士や不動産業者、協力企業など、さまざまな領域でのつながりを作ってきました。今後も多様な相談に対応していくため、今までの枠にとらわれずに、さまざまな分野とのつながりを模索していきたいと考えています。

# 『あいネット』の地域づくり(柏市)

2021年から柏市で本始動する地域での包括的な相談支援体制に向けて、あいネットでは柏市社会福祉協議会と月に一度の定期的な会議や、実際のケース連携を通して連携強化に努めてきました。本記事では、いきいきセンターの機能の紹介と連携に向けての活動をお伝えします。

## <連携目的と意義>

- ・対象ケースとして、「複合的な問題を抱えるケース」、「地域とともに経過観察（声かけ・安否確認等）が必要なケース」等。

例：ひきこもり、精神疾患、ダブルケア等を想定。

- ・市域とコミュニティエリアでの役割分担

### ①市域→コミュニティエリア

- ・あいネットで課題整理を終え、経過観察で様子を見るケースをいきいきセンターへ引き継ぐ

### ②コミュニティエリア→市域

地域で、新規で受け付けた相談で、市域での対応が必要な場合にあいネットへ引き継ぎ



## <いきいきセンターの機能>

地域づくり・子育て・障害者・高齢者支援等の充実を図るため、近隣センターを拠点として、身近な福祉の相談窓口。

本事業は、市地域健康福祉計画及び社協地域健康福祉活動計画の重点的な取り組みとして位置づけ、推進している。

市内7箇所に設置し、各センターにコーディネーター（社会福祉協議会職員）が配置されている。

## 主な機能

- 1 福祉総合相談
- 2 地域の支えあい推進に関する  
こと
- 3 ボランティアコーディネート
- 4 地域組織（ふるさと協議会等）との連携・活動  
支援
- 5 お元気コール事業
- 6 その他地域ニーズに応じた事業等



- ・地域や市域、行政等、それぞれの強みを活かし相談者の方への支援を行っていくとともに連携の在り方や方法を、今後も定期的に会議や実際のケース支援を通して、研磨していく必要があると感じています。



# 分野横断鉄道[国際]

教育

医療

雇用

国際

消費

住居

司法

司法

住居

消費

国際

千葉県国際交流センターは、国際交流・国際協力活動の促進や多文化共生社会の実現に向けた取組を行っています。

## 1. 国際交流・国際協力

イベントの開催や、語学ボランティア、ホストファミリーなどの活動を通し、国際交流を促進しています。

## 2. 多文化共生社会づくり

在住外国人が安心して暮らせるよう、英語、スペイン語、中国語、ベトナム語等、13言語対応の“千葉県外国人相談”を行っている他、弁護士や行政書士による“外国人のための無料法律相談”を実施しています。

お近くにお困りの外国の方がいましたら、ぜひ当センターにご相談ください。

## 3. 人材育成

ボランティア向けの研修のほか、国際理解を深める講座、セミナーなどを行っています。

## 4. 情報提供

会報“国際交流つうしん”の発行のほか、HPやFBで外国人向けや国際交流に関する情報を発信しています。

当センターは、2020年に設立30周年を迎えました。今後も千葉県の国際交流の促進、多文化共生社会の実現のために積極的に活動していきます。

(公財) ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター  
千葉市美浜区中瀬2-6 WBG マリブイースト14階  
Tel. 043-297-0245



雇用

医療

教育

動物



## ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

### 第12回 千葉県障害者グループホーム大会

### 「誰もが、ありのままに地域で暮らす… 今、グループホームにできること」

●配信期間：令和3年2月1日（月）～2月15日（月） ●配信方法：YouTube

●内容：基調講演「誰もがありのままに、地域で暮らす・・・支援の原点」

講師 社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治 氏

分科会①シンポジウム「地域と繋がるグループホームを創るために」

分科会②グループホーム従事者のメンタルケア WITH コロナ

分科会③多様生活探訪～一つじゃない、グループホームでの様々な暮らし方～

分科会④障害者グループホームとは？～サービス内容について知ろう～

●申し込み：Fax 043-222-4133 メール：chiba.ghw@gmail.com

●お問い合わせ：千葉県障害福祉事業課 担当・遠藤 Tel 043-223-2308



発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：のだネット（野田圏域）野田市尾崎840-32

TEL: 04-7127-5366 FAX: 04-7127-5367

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市口-838

TEL 0479-60-2578 FAX: 0479-60-2579